

計測展2018 TOADKKブース
OSAKA No.3-5幅広いご用途にお応えする
東亞ディーケーケーの水質分析計

高感度濁度計 TPF-132 NEW

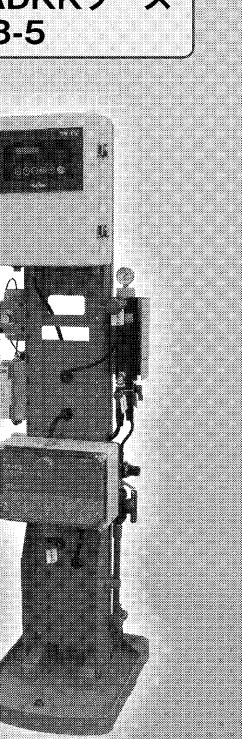
濁度測定範囲: 0.0000~2.0000度
粒径区分: 0.5/1/3/7μm以上

ハイブリッド形微粒子カウンタ TPF-112もラインアップ

蛍光発光を利用した溶存酸素計

蛍光式溶存酸素計
LDO2隔膜や電解液の交換が不要
JIS K 0102 工場排水試験方法に採用HACH 東亞ディーケーkeeは
米国HACH(ハック)の日本総代理店です。

東亞ディーケーkee株式会社

ホームページ www.toadkk.co.jp/出展者セミナー
11月8日(木)11:20~12:00
グランキューブ大阪 10階1004会議室
「身近になった
光学式溶存酸素計の解説と応用」本社/〒169-8648 東京都新宿区高田馬場1-29-10 TEL.03(3202)0218
●東京:03(3202)0226 ●大阪:06(6312)5100 ●札幌:011(726)9859 ●仙台:022(723)5734 ●千葉:0436(23)7531
●神奈川:045(222)1361 ●静岡:054(236)0106 ●名古屋:052(324)6335 ●岡山:086(423)5181 ●広島:082(297)7370
●山口:0834(27)2707 ●四国:087(831)3450 ●九州:093(551)2727 ●長崎:095(665)0921

好評! 日刊工業新聞社の本

国内・海外生産の品質安定化を実現する

グローバル自動化ラインの基礎知識

加工・組立ライン編

村山省己 著

●A5判 ●定価2,700円(税込)

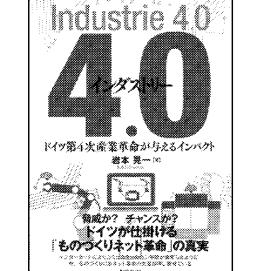
本書は、部品メーカーにおける加工および組立ライン構築の考え方と方法を様々な事例を混じて解説する。国内外で品質を均一に確保していくという観点から「グローバル対応」「ローコスト対応」「変種変量対応」といったラインをどう構築していくかを具体的に紹介し、さらに近年話題のIoTを取り入れた自動化ラインシステムの考え方と方法についても紹介する。

◆目次

- 第1章 生産システムの動向と自動化ラインの構築
- 第2章 自動化ラインの概要と自動化レベル
- 第3章 自動化ライン構築に必要な要素と考え方
- 第4章 生産ライン自動化
- 第5章 インダストリー4.0に対応した自動化ラインの構築
- 第6章 革新的な生産性の向上を目指した超小型自動化ライン
- 第7章 生産ライン自動化の技術課題と解決事例
- 第8章 メイン自動化ライン構築の実際

Industrie 4.0
インダストリー4.0

ドイツ第4次産業革命が与えるインパクト



岩本晃一著 ●A5判 ●定価1,944円(税込)

◆お求めは書店または弊社出版局販売・管理部まで

日野三十四著 ●A5判 ●定価2,592円(税込)

山田浩貴著 ●A5判 ●定価2,376円(税込)

〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1 TEL 03(5644)7410
<http://pub.nikkan.co.jp/> FAX 03(5644)7400

理研計器は創業約80年の歴史を持つガス検知警報器メーカー。自社で開発製造を行う製品で、国内外の産業防災安全に貢献する。

世界最小・最軽量(同社調べ)の4成分ボータブルガスマニタ「GX-3R P」は2種類のガスを検知できる「デュアルセンサ」の開発により、機能性向上しつつ、従来機から約30%の小型化に成功。上位機種である「GX-3RP」は国内初のブルートゥース搭載機として注目が集まっている。両機種は今年10月に発表され、関西エリアでは初出品となる。

他にもPID式センサーを搭載したボーダー・タブルガスマニタ「GX-600」など多彩な製品を紹介する。

横河電機 横河ソリューションサービス

横河電機は、「未来へのシナリオ」デジタルトランスフォーメーションによるつながるモノづくりをメインコンセプトに、最新技術、ソリューション事例を紹介する。

事業変化に対応し、ユーザーとともに新しい価値を創出し続けていくため、デジタルトランスフォーメーションを核とした設備管理スマート化、業務効率改善、操業改善、エネルギー全体最適化の4つのシナリオを提案し、ソリューションや製品群を展示する。さまざまなものによりよりユーザーとともに継続的に新しい価値を創出する「つながるモノづくり」の実現に貢献していく姿を示す。

横河電機 横河ソリューションサービス

横河電機は、「未来へのシナリオ」デジタルトランスフォーメーションによるつながるモノづくりをメインコンセプトに、最新技術、ソリューション事例を紹介する。

事業変化に対応し、ユーザーとともに新しい価値を創出し続けていくため、デジタルトランスフォーメーション